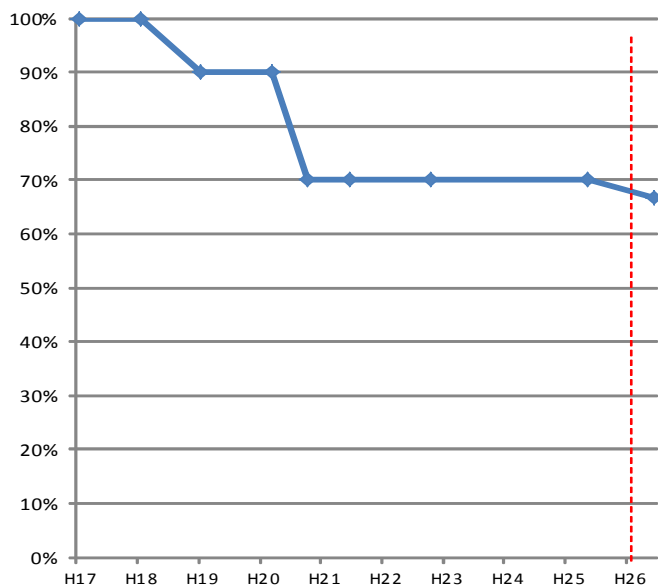


樹種名	ムクロジ		
科 目	ムクロジ科		
学 名	<i>Sapindus mukorossi</i>		
分 布	ムクロジは、中部地方以西の本州から沖縄、国外では中国、インド、インドシナ半島に分布する。		
樹木特性	陽樹であり、谷間など日当たりの良い場所に生息する。		
用 途	器具材として利用。昔は果皮を石鹼の代用として利用。	  	
植栽本数 (植栽密度)	18 本 (他樹種との混植)		
特 徴	【樹 形】 ムクロジ（ムクロジ科、Sapindaceae）は双子葉植物に属する科で、約 140 属 2000 種からなる。落葉高木であり、樹高は 15~20m になる。葉は互生し、羽状複葉のことが多い。亜熱帯、熱帯に多く分布する。日本にはムクロジ、モクゲンジなどが野生する。 日当たりがよく湿りけの多い山中に生える。寺社あるいは屋敷林に植えることも多い。 樹皮は灰褐色で平滑。老木になると不規則に剥がれる。 羽状複葉の木多くは、枝分かれが少なく、一年枝が太い。春先の新芽がかわいい。葉は大きな偶数羽状複葉で、互生する。小葉は 4~8 対あり、広披針形で革質。左右がややずれて対生する。縁は全縁で大きく波うつ。		
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後 1 年目から 3 年目にかけて枯死が発生したが原因は特定できていない。		
被 害	特になし。		

ムクロジ 現存率



【現存率】

植栽後に原因不明の枯死（3本）が発生した。
また、植栽木同士の被圧が見られたため、本数調整伐（1本）を実施した。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は66.7%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

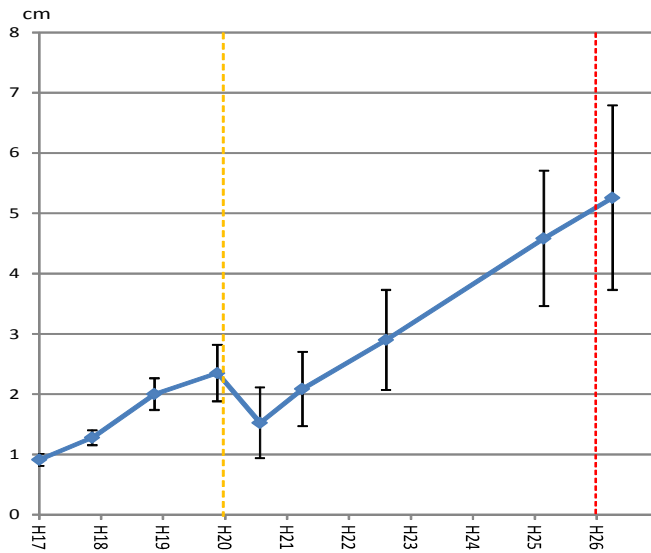
順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は5.26cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ムクロジ 根元・胸高直径



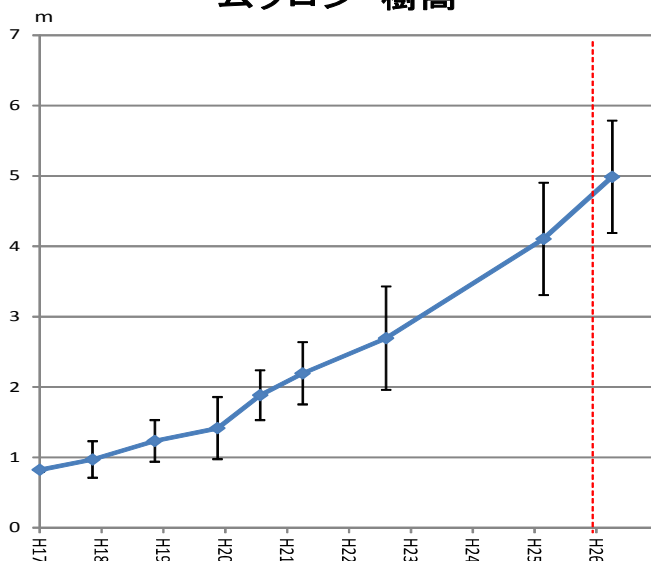
【樹 高】

順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は4.99mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ムクロジ 樹高



《プチ情報》

レイシ（ライチー）、ランブータン、リュウガンなどの果樹を含む。そのほか清涼飲料の原料となるガラナ、観賞用に栽培されるフウセンカズラがある。サポニンを含むものが多く、ムクロジ（英名：Soapberry）などは昔石鹸代わりに使われた。さらに、江戸時代ではシャボン玉遊びの原料として、ムクロジやサイカチの実を利用した。

本来、漢名の音読みだが、同科のモクゲンジの漢名「木欒子」と、本種の漢名「木患子」を取り違えた結果の和名。